



さとのかせ

2019 年春 (No.201) 号

発行: 2019 年 3 月 30 日

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

指定管理者: (一財) 千葉県環境財団

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>



土筆(ツクシ)

今年の春も昆虫広場の一角には、春の季語でもあるツクシがたくさん伸びて、地面に顔を近づけてみるとまるで「ツクシの森」のような景色が観察できました。毎年、冬に草刈りを行っている、日当たりの良い場所での写真です。ツクシはスギナの子といわれるように胞子を放出するための茎(胞子茎)で、スギナの光合成をおこなう茎(栄養茎)とは、姿がまるで異なります。しかし地下(土の中)では、つながっています。

ツクシは小さな子供が遊びで摘む草でもあり、食材にもなる身近な春の植物です。春の山菜として食用するには頭の開く前(胞子を飛ばす前)のものがよく、袴を除いてゆがいて炒めたり、佃煮にしたりといろいろなレシピがあります。栄養価も高いのですが、アルカロイドも多く含むので食べすぎに要注意といえます。一方のいわゆるスギナと呼ばれる栄養茎は畑では手ごわい雑草で、根は深くまで伸び、取っても取っても無くならないので「地獄草」などとも呼ばれるようです。乾燥させて健康茶や薬草にもなり、最近では花粉症にも良いと言われているようです。身近な植物、功罪、人とのいろいろなつながりがあるものです。

シャープゲンゴロウモドキ



長 3cm に達する、国内では 2 番目に大きいゲンゴロウの仲間です。

姿かたちは、ゲンゴロウ(単に種名「ゲンゴロウ」。以下、「ナミゲンゴロウ」と記す)にととても似ています。シャープゲンゴロウモドキには、頭頂部に赤い斑紋があるのが特徴です。



いまから 34 年前 (1984 年) のこと、「シャープゲンゴロウモドキが千葉県で確認された」



とのニュースが全国を駆け巡りました。なぜなら本種は、1960 年からまったく記録がなくなり、もう絶滅している

と考えられていたからです。

このニュースをきっかけに研究がすすみ、いくつかの地点で生息が確認されました。

ゲンゴロウ類の活動期は、おもに春から秋にかけてです。ところが、



シャープゲンゴロウモドキは、10 月～2 月の冬季に交尾をすることがわかりました。夏の暑い時期は、泥の底でじっとしています。この思いがけない生活史が、なかなか再発見できなかった理由の一つのようです。冬活発に動く虫？ピンときませんか。

ところで、なぜ絶滅しそうなのでしょう？

シャープゲンゴロウモドキは、生活のほぼ全てを水中で過ごします。生息には一年中、水のある環境が必要です。昔は、一年中水がある田んぼは珍しくありませんでした。



しかし現在では、水田をカラカラに乾かすことができる田んぼがほとんどです。耕作しやすいよう、ほ場を整備した

からです。コンクリート護岸や外来種の侵入、農薬の影響、休耕地の拡大なども影響しました。マニアによる採集も、悪影響をおよぼしています。「珍しい昆虫を再発見！」というニュースを見て、お金儲けしようとする人も



のまま放置すれば、地球上から絶滅してしまう…そこで平成 23 年、捕獲・殺傷・譲渡・売買などが禁止される「種の保存法」に、シャープゲンゴロウモドキが指定

されました。違反すると、逮捕されます。国や県発行のレッドデータブックで、100 種類以上のゲンゴロウ類が絶滅のおそれの高い種として選ばれています。たとえばナミゲンゴロウも、44 都道府県で絶滅が心配されています。千葉県では一足早く、ナミゲンゴロウは



絶滅したと考えられています。

もう絶滅させない！シャープゲンゴロウモドキを懸命に守ろうとしている人たちがいます。生

息地の再生、調査研究、採集者対策、系統保存などの保全活動を行う人たちです。

いつの日か、それら保全活動が実を結び、シャープゲンゴロウモドキがどこにでもいる普通種になったら…真冬の昆虫観察を楽しんでみたいものです♪

文：M. H.

南房総の「食」について～ヒジキ～



50g 単位で店頭に並び

いすみ市の主要海産物はイセエビ、アワビ、タコ、サザエが有名であるが、他の海産物も引けを取らない。今回はヒジキについて筆を進めることとした。ヒジキの芽生え時期は9、10月上旬で、味もそのころが一番よいが、小さくて採りにくいので、3、4月が適期となっているようだ。南房総では毎年3月に解禁されて、漁業権を持った漁師たちがいっせいに海岸の岩場で刈り取りを始める。南房総の「房州ヒジキ漁」は季節の風物詩として



水に戻す前

鴨川の3月上旬ごろなど、ヒジキ解禁風景が毎年のようにニュースに取り上げられている。



水に戻した後

地元では5月初めころまで釜上げした生ヒジキがスーパーの店頭並び、安い価格で旬の味を堪能できる。栄養成分としては、ヒジキにはカルシウム、亜鉛、鉄、マグネシウムなどのミネラルが豊富で、食物繊維にも富み、ビタミンB1、B2も多く含まれる。房州(いすみ)のヒジキは歯ごたえが柔らかく、味が良いことで評価が高い。シーズンを過ぎると生ヒジキは店頭には並びず乾燥ヒジキが手に入る。50gで500円ぐらいが相場のような。乾燥ヒジキを30分ほど水で戻してから調理する。50gの乾燥ヒジキを水に戻すと90gになった。倍ぐらいに増える。油ものと相性がよく、ヒジキの煮物はおふくろの味として定番の料理の一つである。

今回は、このヒジキの煮物とヒジキサラダを紹介する。

○ヒジキの煮物

乾燥ヒジキ 100g、ニンジン 1本、油揚げ 1枚、ダイズ(あれば1/2缶)、しょうゆ大2、砂糖大1と1/2、みりん大1、酒大1。

油揚げをキッチンペーパーにのせ、電子レンジで30秒加熱し油抜きをする。そして短冊切りに切る。ニンジンはいちょう切りにする。



ニンジンをいちょう切りにするのが我が家のスタイル

ちょう切り(一般的には短冊切り)。フライパンにごま油を引き加熱する。フライパンが温まったらヒジキ(長ければ一口大に切る)とニンジンを入れ火が通るまで加熱する。しんなりしてきたら油揚げを入れる。全体的に火が通ったら、しょうゆ、砂糖、みりん、酒を入れ味がなじむまで煮込む。簡単ではあるが、白いご飯にも合い、つまみにもよい。そして体にもよい。ヒジキは肉厚で歯ごたえもあり、この一品だけでもおかずには十分である。

○ヒジキサラダ

乾燥ヒジキ 50g、ツナ缶 1缶、レタス 1枚、キュウリ 1/2本、コーン 1/2缶。

ヒジキは一度湯通しする。さっとゆでたら湯を切り粗熱をとる。

キュウリは斜めの短冊切りをし、塩でもんで水分をよくとる。キュウリの水分が



彩りも考えて

残っていると、水っぽくなるので、よく水分をとることが重要である。レタスは一口大にちぎる。レタスを敷き、キュウリ、ヒジキ、ツナ、コーンを盛り完成。好みのドレッシングをかけて食す。ヒジキは味が淡白なため、どんな料理にでも合うのがよい。私たちの生活に身近な食材である。

文：E. N

マテバシイ

皆さんはマテバシイという樹を知っていますよね。マテバシイとはブナ科のマテバシイ属で、本州、四国、九州、琉球の暖帯沿岸地に分布している常緑の高木です。サツマジイ、マタジイ、マテジイ、マテバガシ、マテガシ、アオジイ、トウジ、トウジイなど、地域名の多い樹です。先日、事務所で会話をしている時に、ある職員がマテバシイは房総半島南部を代表する樹林で、自然に成立したものと誤解している事に気がつきました。と、偉そうに言う私自身も、知人とともに館山におられた森岡氏のお宅に伺った時に初めて知ったのですけれど・・・。

マテバシイは確かに房総半島南部では目立つ林分(りんぶん：樹木の種類、樹齢、生育状態などがほぼ一様で、隣接する森林とは明らかに区別がつく、ひとまとまりの森林)です。純林を形成し、1種のみで高木層を形成する場合がありますね。でも、これだけ広範囲に分布している割には基本的にはスギの植林と同じ人工林なのです。



マテバシイ林¹⁾

マテバシイは天然分布か植栽か、森岡氏はその著書で「日本で原生していたらしいのは、九州南部だけであったようである」²⁾としています。そして、「江戸時代の中期に、江戸湾岸で新しい産業として興った、多量の木の枝を必要とするアサクサノリ養殖産業技術の普及が、隣接地域である千葉県にマテバシイの大量需要を促した強いきっかけであったことは、ほぼ間違いのないこと」²⁾とし、「本格的な植栽文化が広まったのは明治の中期以降であり、昭和の中頃まで続けられた」と述べています。いま見られる多くのマテバシイ林は、明治以

降に植栽された人工林ということになります。需要と供給の関係から、ノリの生産技術の改良とともに網ひびが広まるに連れ、植林は終わることになりました。現在の森林は成林後に伐採され、萌芽・再生したものとなります。

マテバシイが私達に馴染みのある理由の一つに、その実であるドングリにあるでしょう。ドングリとはブナ科(とくにコナラ属)の植物の果実(堅果)の総称を言います。ブナ科には「ブナ属」「クリ属」「コナラ属(コナラ亜属・アカガシ亜属)」「シイノキ属」「マテバシイ属」といったものがありますが、クリの実はあまりドングリとは言いませんね。なぜドングリの話を出すかと言えば、縄文時代、農耕以前の植物食の研究によれば食用植物は37種が知られていて³⁾、その中にマテバシイがあることからドングリが食用に供されていたことがわかっているからです。青森の三内丸山遺跡からは、クリが食料になっていたことが知られています。大昔はドングリが食用としても利用されていたのですね。

そして、神奈川県横浜市の柏尾川低地では、今から約5500年前にはすでにマテバシイが生育していたことが花粉分析の結果⁴⁾からわかっています。したがって、必ずしも房総半島にマテバシイが入ってきたのが江戸時代というわけでも無さそうですが、今となってはその樹が植栽されたものか縄文時代からの子孫なのかは分かりません。

マテバシイは萌芽再生力が強くうっぺいとした林冠をつくり(写真参照)、他種を寄せ付けない性質が好まれ、薪炭材としても各地に植えられたものと思われます。南房総の海岸地域ではこのマテバシイ林が独自の景観をつくっています⁵⁾。マテバシイの森に入ると、枯れた葉が積り下草はほとんどありません。ガサガサと音を出して歩きます。植生調査で20m四方のコドラートを設定しても、あまり時間がかからなかった記憶があります。生態系としてはどちらかといえば貧弱な印象を受けます。そのためか、マテバシイ植林は、近年では特に自然環境保全地域においては、部分的に除去すべき対象とされている⁶⁾ようです。

マテバシイの林はノリひびや薪の利用の衰退とともに荒廃が進んでいます。自然保護の

面では重要視されない側面も指摘がなされているのが現実でしょう。一方で、材の新たな用途が開発がされて利用されるようになれば、伐採による立木密度の低下により林内照度が上がり、林床植生の復元に伴う森林土壌の形成が期待されます。森林を利用しながら適性に管理するスキームも提案されています¹⁾。

南房総の景観を構成するマテバシイ林が、植生遷移の中で新しい森林へと変貌するのか、人工林として維持されていくのか、皆さんはどのような姿を望まれるのでしょうか。

参考資料

- 1) 森林バイオマス資源活用研究グループ (2006) 森林の多面的機能を持続的に発揮させるために～マテバシ

- イ林を事例として～、平成17年度千葉県職員能力開発センター政策研究(ふさの風)自主研究グループ報告。
 2) 森岡節夫(1999) 南房総の植栽文化 トウジイの歩いた道、千葉県農業改良協会。
 3) 渡辺誠(1974) 縄文人の自然環境に対する適応の諸相、第四紀研究、Vol. 13, No. 3, P. 160-167。
 4) 清永丈太(1990) 横浜市南西部、柏尾川低地で得られた完新世堆積物の花粉分析、第四紀研究、Vol. 29, No. 4, P. 354-360。
 5) 山田真(2003) マテバシイ属、千葉県の自然誌 別冊4、p. 113、千葉県資料研究財団、千葉県。
 6) 木村陽子ほか(1997) 白浜自然環境保全地域の植物相、平成8年度千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書、千葉県。

文： M. N.

チバニアン

一昨年あたりから急に耳にするようになった「チバニアン」。国の文化審議会は平成30年6月に、「地質年代境界として、また地磁気逆転現象を保存するものとして学術的価値が高い」と、国の天然記念物に指定するよう文部科学相に答申し同年10月15日に官報告示されたことにより、「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」が国天然記念物に指定されました。いろいろな話題を提供してくれるチバニアンについてみてみましょう。

そもそもチバニアンて何でしょう。地球の磁場を示すN極とS極は過去360万年の間に計11回、逆転したと考えられ、国際地質時代区分の最小区分境界にあたる第四紀更新統の前期(L)と中期(M)は最後の地磁気逆転を示す証拠がわかる堆積層を「境界」にすることが決まっています(他にもいろいろな条件があります)。そして、境界を示す模式地として、国際標準模式層断面及び地点(Global Boundary Stratotype Section and Point 略称: GSSP)を示す標識が地球上で1点だけ打たれます。その候補地の一つが千葉県市原市の養老川に切り立つ田淵の露頭でした。他の候補地は2箇所、イタリアのモンテルバーノ・イオニコとビィラ・デ・マルシェです。日本の研究者グループが田淵を申請し、時代名称をチバニアンとして申請しました。天然記念物の指定は、このGSSP決定に先立ち行われたものです。

ちなみにGSSPは顕生代の101の時代境界が指定可能であり、現時点で66か所が承認され

ているそうです。ちなみに同じ時代に2地点は指定できないので、まさに世界で一つだけ、ということになります。



左手の崖が田淵セクション、奥が養老川(2016撮影)

次は名称についての考察です。チバニアン、いいキャッチコピーで覚えやすいですね。ただ、純粹に学問的に考えてみましょう。「チバニアン」を「ラテン語で「千葉の時代」と注釈をつけている記事がありました。現在の国際ルール(国際層序ガイド)における時代の命名規約には、地名は公的な地図などに掲載しているものを用いることとなっています。それに語尾をつけて、「千葉の時代」ということになります。この時代名称は英語表記なので、英語で地名を形容詞化するには、“an”もしくは“ian”を名詞の後に付けることが一般的です。ラテン語表記ではなさそうです。

これが絶対的なルールかどうかはわかりませんが、例えばCanadaは母音で終わるので

Canada+ian で Canadian と a が消えています。他にも母音で終わる地名はたくさんあります。Pari や San Francisco などともそうですね。単純にルール通りにならないところも多そうです。そこで、とある外国人が日本の接続詞の「の」を入れて、「千葉の」ian で Chiba + no + ian = Chibanian ではどうか、と提案したそうです（異なる意見もあるようです）。

ルール通りなら Chiba+ian から Chibian のような変化となりそうで、チビアン。現時点では審査委員会の方でもチバニアンという呼称にクレームは出ていないようですので審査が順調に進めば名称は Chibanian となりそうです。



サンプリング箇所に杭が打たれ、地磁気の正逆が色分けされている（2016年撮影）

次に地層についてです。天然記念物に指定された「養老川流域田淵の地磁気逆転地層」は、市原市の南部、養老川の中流域にみられる地質年代区分の第四紀前期更新世および中期更新世の地層です。この露頭は海底で堆積した地層が隆起し、河川の侵食によって削られ、平らな河床の両側に高い崖がそびえたつ景観を作っています。この露頭では、今から約77万年前に最後の地磁気逆転現象がおき、その後現在と同じ地磁気の向きになった証拠が残されています。

この現象が、同じ地層の中で連続的に観察・分析できる場所は、世界的に市原市田淵周辺以外ではほとんど例がなく（冒頭のイタリアの2か所もあります）、学術上極めて価値の高いものと言えるでしょう。そして、地磁気の逆転現象の生じた時期には岐阜県と長野県の境にある御嶽山の噴火に起因する火山灰（白尾火山灰びやくびかざんばい・Byk-E）が堆積しており、地磁気逆転の境界を視覚的に捉えや

すいといった特徴があります（火山灰は境界のちょっと下にあります）。この時代の堆積速度がこの地層では500年で1m程度と非常に速く、厚い地層が連続して形成されたことから細かな分析も行えるという長所があります。地層に含まれる磁鉄鉱に堆積時の地磁気の方角が記録されていることから、地層が厚いことは好都合なのです。また、有孔虫などの化石、貝類などの海洋生物の痕跡など、化石が良好に残っていることも、他地域との対比には有益ということになります。

なお、GSSPの承認には全部で4ステップあり、最終的に第4ステップの審査に通過すれば、約77万年前～約12万6千年前の地質時代の名称が「チバニアン」と名付けられることとなります。GSSP決定までの審査ステップは以下のとおりです。

- ①下部-中部更新統境界作業部会で審査。・・・
2017年11月通過 審査結果をSQSへ答申。
- ②SQS（第四紀層序小委員会）で答申を認めるかの投票。60%以上の得票が必要。・・・・・・・
2018年11月通過

↓

- ③ICS（国際層序委員会）にて投票。60%以上の得票が必要。
- ④IUGS（国際地質科学連合）にて投票。60%以上の得票が必要。
そしてGSSP決定。
現在③の段階、年内に結論が出ればいいですね。

主な参考資料

千葉時代（チバニアン）の解説

<https://sites.google.com/a/nipr.ac.jp/chibasection/Home>

国際層序ガイド（International Stratigraphic Guide）の9章C節2項d.

Kazaoka Osamu, Okumura Koji, Kumai Hisao, Nirei Hisashi, Okada Makoto, Suganuma Yusuke, Yoshida Takeshi, Kubota Yoshimi, Izumi Kentaro, 2015, The GSSP candidate section for the Lower-Middle Pleistocene Boundary on Yoro River (Chiba Section), Ps. 44.

岡田 誠, 2018, GSSP申請と千葉セクション, 千葉県立中央博物館講演会.

産総研ニュース

https://www.aist.go.jp/aist_j/news/au20181119.html

GSSP Table - All Periods

<http://www.stratigraphy.org/GSSP/index.html>

文：M. N.

これからの行事案内

5月

(受付中)

●センター内ホタルの水路で生きものを探そう

5日(日)10:00~12:00 定員20名 雨天中止
やがてゲンジボタルの舞う水路で、水辺の生きものを観察しよう!



持物:水の中で履く靴(サンダル不可)、汚れてもいい服装、着替え

●落花生の栽培体験をしよう

11日(土)10:00~12:00 定員8家族 小雨決行
花が地面に潜って実になる落花生を栽培。秋に収穫しよう。収穫は10月6日の予定。要、適宜の観察と草取り。

持物:長靴、作業のできる服装、軍手
▲参加費:700円



●太東崎で海辺の自然を観察しよう

18日(土)9:30~12:00 定員20名 雨天中止
太東の岬周辺を歩いて、海辺の自然(植物・地質など)を観察しよう。場所:太東岬周辺
持物:飲物、歩きやすい服装・靴

●岩船で磯の生き物観察をしよう

19日(日)9:30~12:30 定員20名 雨天中止
磯にはどんな生き物がいるかな? 観察しましょう! 場所:いすみ市岩船の磯(センター集合後、移動)
持物:飲物、水の中で履く靴(サンダルや長靴は不可)、軍手、帽子



6月

(4月2日9時から受付開始)

●センター内小川でのホタル観察

1日(土)19:15~20:00 定員20名 小雨決行
ゲンジボタルが今年もセンターの小川で見られるかな?
持物:歩きやすい靴(サンダルは不可)



●センター内ホタルの水路で生きものを探そう

2日(日)10:00~12:00 定員20名 雨天中止
やがてゲンジボタルの舞う水路で、水辺の生きものを観察しよう!
持物:水の中で履く靴(サンダル不可)、汚れてもいい服装、着替え



7月

(5月1日9時から受付開始)

●ハス観賞週間

9日(火)~21日(日) 随時 見学自由
日の出と共に開花するハスの花を観賞しましょう。どなたでも大歓迎!
この前後の週も見ごろのはずです。



●夏の夜の生き物たち

20日(土)19:00~20:30 定員20名 雨天中止
生き物たちは夜どこで何をしているのかな?
持物:懐中電灯、飲物、虫よけスプレー、歩きやすい靴(サンダル不可)



●海辺の植物観察

21日(日)9:30~12:00 定員20名 小雨決行
場所:夷隅川河口周辺で、海辺の植物をみてみよう。場所:いすみ市の海岸、海浜植物のある場所(センター集合後、移動)
持物:飲物、帽子、雨具、歩きやすい服装・靴



8月

(6月1日9時から受付開始)

●センター内ホタルの水路で生きものを探そう

4日(日)9:30~11:30 定員20名 雨天中止
やがてゲンジボタルの舞う水路で、水辺の生きものを観察しよう!
持物:水の中で履く靴(サンダル不可)、汚れてもいい服装、着替え



●夏のスペシャルウィーク さとの夏遊び

9日(金)~11日(日) 当日受付
ガサガサ、竹とんぼ、昆虫観察など、さとの夏遊びをしましょう!
場所:センター地区
持物:飲物、帽子など。
詳細は7月下旬発表予定。お問い合わせください。
▲参加費の必要なものもあります



●夏の星座観察

11日(日) 19:15~20:45
定員20名 雨天プログラムあり
夏の大きな三角形など夏の夜空の星座観察をしましょう。
持物:飲物、虫よけスプレー、観察道具(あれば)



9月

(7月2日9時から受付開始)

●米作り2・稲刈り体験をしよう

1日(日)9:00~12:30 定員30名 小雨決行
春に植えた稲には穂がいっぱい! 皆で刈り取りしよう



※申込は田植え参加者が優先されます
持物:長袖の服、帽子、タオル、軍手、長靴、弁当、飲物 ▲参加費(こども300円 大人600円)

●秋の昆虫観察

22日(日)10:00~12:00 定員20名 小雨決行
昆虫採取、草花探しなどして秋の身近な自然を観察しましょう
持物:帽子、タオル、飲物、歩きやすい服装・靴

10月 (8月1日9時から受付開始)

●いも掘り・焼きいもにチャレンジ

12日(土)9:30~13:30 定員20名 小雨決行
畑でいもを掘って、モミ殻で焼き
いもをしましょう。

持ち物：新聞紙、アルミホイル、
長袖の服、帽子、タオル、
軍手、長靴、弁当、雨具

▲参加費(400円)

●竹かご教室(入門)

26日(土)27日(日)、11月2日(土)4日(月)



9:30~16:00 定員20名

竹取り、ひご作りから始めて4回
終了までに完成させましょう。参
加対象高校生以上、全4回参加
できる方。

持ち物：竹用ナタ、竹引きノコ、植木バサミ、膝あて、軍
手、弁当 ▲通し参加費(1200円)



☆以降の行事予定は当センターのWEBサイトや配
布済みチラシをご覧ください。

<http://www.isumi-sato.com/gyouzi.html>

行事への参加申し込み方法

*お申込みは、電話(0470-86-5251)、メール(senta-sato@isumi-sato.com)、FAX(0470-86-5252)、または直接セ
ンター事務室でお申し込みください。なお、イベント開始月の2ヶ月前の1日9:00から受付です(1日が休館日の
場合は翌日、1月は5日から受付です)。

*お申込み時は、参加者全員の氏名、住所、年齢、電話番号(携帯電話がある方は併記)を記載ください。なお、
メールやFAXでの申込みではセンターから返信が無い場合、送受信エラーを疑い、確認のお電話を下さい。

※定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。ご了承ください。

※小学生以下のお子様は保護者同伴で参加ください。※費用の記入がないものは、無料です

※行事は原則ネイチャーセンターに一度集合してから移動します。

いすみ楊枝 - 千葉県伝統的工芸品 -

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介
するため、毎月池田和彌さん、村杉達雄さんに実
演を、いすみ楊枝の会に活動をお願いしていま
す。

日時 毎月第3日曜日(9:30~16:00)

場所 ネイチャーセンター

※いすみ楊枝の会：会員募集中

【コラム】薪割りをしていたら、二年ほど置いておい
た広葉樹の丸太の中から、白
い体色をした甲虫の幼虫が
出てきました。頭部の色が、
クワガタはオレンジ色、カブ
トムシはこげ茶色。お尻(肛
門)の形がクワガタ(写真)は
縦に割れ、カブトムシは横に
割れるという特徴で見分け
がつくといいです。



◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、
12月28日~翌年1月4日

開館時間：9:00~16:30 (7/20~8/31は17:00まで)

入館料：無料

※当施設のご案内や解説などを希望される団体は、2週間
前までにお申し込み下さい。

※行事やガイドを申し込み後、都合によりキャンセルする
場合は**必ず**早めにセンターまでご連絡ください。

☆過去の行事内容やセンターの日常を、センター日誌
(<http://isumisato.exblog.jp/>)にてご覧いただけま
す。

編集後記

皆様のおかげをもちまして、センターの指定
管理者として10年を務めることができました。
深く感謝申し上げます。

私は若いときから釣り好きで、フナの産卵の
きっかけになる、温かい南風を伴う春の雨が大
好きです。今では、ニリンソウなどの春の花が
咲きだした、渡って来たツバメを初めて見た、
程度でも感激していますが、恥ずかしながら若
い時にその様な感性は貧弱でした。年齢を重ね
ると時間が経つのが早く感じるのは、生活の
なかで心を動かされるのが少ないからだとい
いますが、年齢を経て初めて育まれる感性も
多いのではないのでしょうか。

「さと」には、都会ではなかなか体験、感じる
ことができないことがたくさんあります。

今後ともセンターをご利用ください。所長